



〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1 浅草ビューホテル 2階  
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL: http://www.asachu-rc.jp

## 2013 - 2014 年度テーマ

R.I. テーマ 「ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を」  
R.I. 会長 ロン D・バートン  
地区ガバナー 吉田 建二  
クラブテーマ 「参加し行動しよう」  
クラブ会長 藤掛 靖元



2014年5月28日

第1362回例会

会長 藤掛 靖元  
幹事 伊石 佳高

## 本日の卓話

「祭りと旅」

東京浅草 R.C. 宮本卯之助 様

## 今後の卓話予定

6/4 「日本の職業教育」 学校法人敬心学園 理事長 小林光俊 様  
6/11 「ローターアクト提唱について」  
東京ワセダロータリークラブ 地区青少年奉仕副委員長 片岡 荘子 様  
6/18 「クラブ協議会・今年度事業報告」 各委員長  
6/25 「1年を振り返って」 藤掛会長、伊石幹事



## 6月結婚記念日

3日 (42周年) 上原ご夫妻 ・ 10日 (25周年) 高木ご夫妻  
28日 (16周年) 斎藤ご夫妻

## 前回 (5/21 1361 回例会) の記録

### 来訪者紹介

◆ゲスト 1名 一般社団法人RCF復校支援 チームディレクター 山本慎一郎様  
◆ビジター 2名 板橋セントラルRC 茂木正光様・東京足立RC 北澤艶子様

### 出席報告

総会員数	休会	出席免除	出席	欠席	出席率	修正出席率
47名	3名	4名	40名	2名	95.24%	1359回例会修正 欠席0名・出席率100%

東日本大震災で被災された皆様に一日も早い平和と復興がおとずれますようにお祈り申し上げます。このような時こそ、我々ロータリアンは『五大奉仕』を実行・実践しましょう。明日の日本と世界はみんなの手の中に！

## 会長報告 <藤掛会長>

・先週の日曜日に地区・青少年奉仕包括成果発表会が市谷のカンファレンスセンターにて開催されました。山尾会長ノミニーと私が出席いたしました。この発表会にはローターアクトをはじめとする青少年が53名、ロータリアン60名が参加致しました。また、来賓として吉田ガバナー、鈴木孝雄ガバナーエレクト、鈴木喬ガバナーノミニーがお見えになりました。まず最初に青少年奉仕の4つの部門、インタ

ーアクト、ローターアクト、青少年交換(来日学生、派遣予定学生)、青少年交換学友(ローテックス)、からの近況報告と各人の抱負が語られ、次に青少年の方々が10のグループに分かれそこにロータリアンが数名オブザーバーとして入り「青少年奉仕」をテーマとしたワークショップが行われました。ローターアクトの方々ははじめ青少年の方々と意見交換等交流をする時、必ず「自己の成長」という言葉と出会います。なぜ、ローターアクト、インターアク

トに入ったか、また、交換留学生、ローテックスとなったのか。答えは「ロータリアンをはじめ多くの方の様々な体験から今自分の年代にしかできない学びの為に。」そのキーワードは「自己（人間としての）成長」です。ロータリアンからすると、いつかはロータリアンにとの思いですが、私は青少年の様々な会合に出させていただき、彼らはまず人間としての成長の機会として青少年奉仕を捉えている、「ロータリアン側から見た青少年奉仕」と「青少年側から見た青少年奉仕」の違いを感じます。これは我々ロータリアンが彼らの目線に立って、まず彼らの成長を願いその為に何をすべきかを考え共に行動する。この繰り返しがロータリアンと青少年のベクトルが一つにし

将来のロータリアンを育てるベースになると思います。もう一つの問題として、ローターアクトの上限年齢（30歳）が設けられている事です。30歳といえば働き盛りでまだまだ現場で多くの体験を積んで行く時期です。40過ぎたらそろそろロータリーを考えようかという方もあるかと思います。現実にローターアクトOB会を作ろうという案も出ております。このOB会とロータリアンとの交流の機会を作ることも将来のロータリアンを生み出すベースとなるのではないのでしょうか。「ロータリアン側から見た青少年奉仕」と「青少年側から見た青少年奉仕」、この両方の視点に立って青少年奉仕をとらえてゆくところに次の展開があるのではないかと感じた次第です。

---

### 幹事報告<伊石幹事>

- ・理事、役員の皆様。今年度の下半期事業報告のメ切が今月末となります。6月18日(水)発表となります。よろしくお願ひ致します。

します。

- ・新年度に向けて会員名簿を新しく致します。回覧致しますので訂正のある方はよろしくお願ひ致します。

---

### 委員会報告

#### <親睦委員会 浜中委員長>

- ・来週の例会で、会長・幹事慰労会の会費

を集金致しますので、ご用意お願ひ致します。

---

### ニコニコボックス

#### <東京足立RC 北澤艶子様>

- ・久方振りにお邪魔し、遅刻して申し訳ございませんでした。

#### <藤掛、伊石>

- ・山本慎一郎様。本日の卓話よろしくお願ひ致します。

#### <山尾、宮村、太田、古谷、原田、岩戸、尾泉、中村、上原>

- ・本日の卓話「東北復興支援にみる新しい官民連携のあり方」一般社団法人RCF支援チーム ディレクター 山本慎一郎様。よろしくお願ひ致します。

#### <松崎、矢野、海内、永井、潮田>

- ・浅草神社例大祭三社祭が天候にも恵まれ無事に終了しました。3日間で180万人の人出でした。ご協力頂いたご関係皆様にご心より感謝申し上げます。・・・これから後処理です。

#### <天笠、永井、柘、藤田>

- ・三社祭 松崎さん、矢野さん、ご苦勞様でした。

#### <天笠>

- ・大相撲 遠藤初金星。日本人横綱に早くなって下さい。

## 「東北復興支援にみる新しい官民連携のあり方」



一般社団法人 RCF 支援チーム  
ディレクター

山 本 慎一郎 様

**山本慎一郎様のご紹介**

大学卒業後、国土交通省に勤務。国土交通省には2000年より12年余勤務、都市・地域整備関係を担当。その間外務省に3年出向しバンコクの在タイ王国日本大使館日本大使館を中心とする行政実務に従事。そこで、同年代の方がビジネスパーソンとして活躍している姿をみて自分の信念に基づき思うことをやろうと決意し、官庁を退職。その後関西のコミュニティデザイン事務所を経て一般社団法人 RCF 復興支援チーム（代表理事：藤沢烈氏）に合流し現在に至っている。

日本都市計画学会及び土木学会（景観・デザイン委員会委員兼幹事）会員。  
政策研究修士（開発政策）。技術士（建設部門）。

**1. 一般社団法人RCF復興支援チームの紹介****(1) 課題の本質を理解した上での適切なコーディネート機能**

2011年4月に震災復興のための調査を行う団体として発足後、被災地のニーズに合わせ行政、企業、被災地の関係者間の調整を行い復興事業の立案とその実現を支援している。現在スタッフは40名程で、公務員、会社経営者等多様なバックグラウンドを持っている。

**(2) マッチングの先を見据えた組織構築を支援**

被災地復興支援はこれが正しいと言った正解はない。何が課題なのかを見極めリソース（人材、知識）を収集し工程管理をしっかりと組立、PDCAサイクルをきちんと回す。そのノウハウをモデル化する。このプロジェクトの進め方のモデルが重要な資産となっている。この企業経営のノウハウを復興の現場が必要としており、また復興という大きな社会的課題に役立てる事が重要である。

**2. RCF 復興支援チームの企業との連携事業****(1) 現在40名程で約10件のプロジェクトを回している。**

復興はインフラが主と捉えられる場合もあるが、それ以外にも、行政では出来ない部分が多くある。また、民間経済活動のみで十分かというところでもなく、

我々のような非営利団体が企業や行政と一緒に組んで活動ことにも重要な意味があると考えている。

(2) 連携事業としては

企業	プロジェクト概要	地域
キリンビール	水産支援事業「キリン絆プロジェクト」	東北三県全域
UBS	コミュニティ支援事業	岩手県釜石市
ジョンソン & ジョンソン	仮設住宅支援事業	大船渡・大槌・釜石
双葉町	コミュニティ支援事業	福島県双葉町
復興庁	復興人材プラットフォーム 「WORK FOR 東北」	東北三県全域

(3) 新たなプロジェクトとして

企業	プロジェクト概要	地域
大熊町	避難者コミュニティ 教育復興支援事業	福島県大熊町
ジョンソン & ジョンソン	公営住宅コミュニティ形成支援	福島県内

### 3. 復興の現場ではどのような事が必要とされているのか

震災より3年が経過しインフラは整備されつつある。これから必要となるのは人である。この復興の現場に関わるといことは若い方々のキャリア上の良いステップとなる。この考えをベースに被災地が必要としている人材を企業等から現地に派遣することを目的としたマッチング事業を復興庁の委託事業として昨年開始した。具体的な事業として「WORK FOR 東北」がある。企業派遣の例としてTOTO社より福島県双葉町への派遣がある。

詳しくはホームページ参照。 <http://www.work-for-tohoku.org/>

### 4. 私が担当している事業

インフラが整備されつつある中で必要な事は、産業復興とコミュニティ復興である。特に福島県等でコミュニティ復興に関して下記事業を展開している。

(1) 福島県内に整備する復興公営住宅を核として原子力災害から長期避難者のコミュニティを形成・維持するために包括連携協定を締結。

(2) 復興支援員制度を活用したコミュニティ支援を推進

総務省の復興支援員制度を活用したコミュニティ支援の委託事業、および導入・運営支援事業を福島県双葉町、福島県大熊町、岩手県釜石市で実施。

上記のような取り組みを細く長く続けてゆく事が大切である。

### 5. ロータリアンの皆様へ

産業復興、コミュニティ復興はこれからの本番である。この場をきっかけとして興味関心を持ち、細く長く復興支援を続けて頂きたいと思います。